

読み物資料

ネット将棋

P.28~31

1-(3)

1 資料の特性

将棋や囲碁は、対局者の一方が自分の負けを宣告することで終局となるものであり、対局者双方の自主性・自律性が不可欠なゲームである。本資料は、その自主性・自律性を無視し、一方的に試合を中断させてしまう主人公の不誠実さが道徳的な論点となっている。

誠実とは、真心をもって他者に接する生き方である。誠実な態度でネット将棋を楽しみ、実力を伸ばす敏和とは対照的に、主人公の「僕」は、ネット将棋を楽しめず、気分や感情に支配されて不誠実に振る舞っている。そうした折、智子や明子と話している敏和の「自ら「負けました。」」「「目には見えない相手とどう向き合うかで、自分が試されてる気がする」という言葉を聞き、誠実に自らの行動に責任をもって行動するとはどういうことかを考え始めるという資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自主的に考え、行動できるようになる一方で、自由の意味をはき違え、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかを深く考えないで行動する面も見られる。

ネット社会における匿名性は、ややもすると無責任な態度や攻撃的な言動と結び付きやすい。インターネットを利用し

らうか。

- ・ ネットで相手が見えないからとひきょうなことをしていた。
- ・ 勝負負けでなく、相手と誠実に対戦する姿勢が大切だ。
- ・ 相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰に対しても相手の立場を考えることが大切なんだ。

事例②

登場人物の言動を通して、誠実の意味について考える展開

【主な学習】

- ① 心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。
 - ・ 勝負の結果を素直に受け止める気持ち。
 - ・ 相手への敬意。
 - ・ 自分自身、力の限り頑張ったことに達成感を感じている。
- ② 「心から」という言葉には、どのような意味があるのだろうか。
 - ・ 悔しくても、負け惜しみではなく、負けを素直に認めることで、心から「負けました。」と言える。
 - ・ 自分が正々堂々、誠実に勝負したからこそ、心から言える言葉。
- ③ 誠実とは、どのようなことか。誠実に行動するためにどのようなことが大切なのだろうか。
 - ・ 結果を素直に受け止め、自分の行動に責任をもつこと。
 - ・ 自分の言動がどういう結果につながるのかをよく考えることが大切。

た機器や通信手段を有益に活用するためには、他人の立場や結果に対する責任を熟慮した上で、誠実に実行していくことがより必要とされている。そうしたことを自分たちの行動と照らし合わせて、生徒一人一人に深く考えさせたい。

3 展開例

【ねらい】

誠実に行動し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、誠実に実行することの大切さを考える展開

【主な学習】

- ① 嫌そうな顔もせず、手早く駒を片付ける敏和を見て、「僕」はどのようなことを思っていたのか。
 - ・ 僕が時間稼ぎをしていたことを、敏和は本当は気付いていたんだらう。なのに、何も言わないなんて、格好付けるなよ。
 - ・ 敏和は、自分が勝っていたと思って、きつといい気分だらうな。いい気になるなよ。
- ② どう考えて、「僕」はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろうか。
 - ・ 相手が誰だか分からないし、また、自分が誰かも知られていないからまあいいか。
 - ・ 負けそうになったらやめればいいだけだ。こんなので敏和が強くなったなんて信じられない。
- ③ 敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、「僕」が笑えなかったのは、どのようなことを考えていたからだ

一の視点 重点ページ

自分を深く見つめて

P.44~45

1 このページの特徴

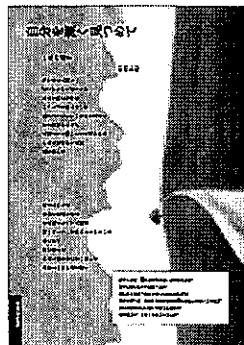
一の視点に関わる重点化「自立心や自律性を育成すること」に関するページである。

坂村真民は、高等学校などで国語を教える傍ら、数多くの詩を作った。愛媛県伊予郡砥部町に記念館がある。

2 活用事例

道徳の時間

自立心や自律性の内容を学習する際に、この詩を読んで、感じたことについて意見交流をし、自分を深く見つめさせるようにしたい。「一本の道を行く」とはどういうことか、自分にとっての「一本の道」とは何かなどについて話し合うことができる。



P.44~45